

# 付3 標本抽出方法及び結果の推定方法と推定値の標本誤差

## 1 調査の対象

詳細結果の調査客体は、基本集計における2年目2か月目の調査世帯を対象\*としており、これを基本集計の8組の副標本で示すと、偶数月はA<sub>2</sub>、C<sub>2</sub>、奇数月はB<sub>2</sub>、D<sub>2</sub>の組に当たるそれぞれ2組の調査区が調査の対象となっている\*\*。

\* 基本集計では、刑務所・拘置所等のある区域及び自衛隊区域を含む地域については、法務省、防衛庁からの資料を得て集計しているが、詳細結果については調査の性格上これらについては調査対象とはしていない。

\*\* 詳細結果は基本集計の約4分の1に当たる規模で調査を行っている。

(参考) 基本集計における8組の副標本

A <sub>1</sub> ・・・1月, 5月, 9月に調査開始の1年目調査区	A <sub>2</sub> ・・・1月, 5月, 9月に調査開始の2年目調査区
B <sub>1</sub> ・・・2月, 6月, 10月に調査開始の1年目調査区	B <sub>2</sub> ・・・2月, 6月, 10月に調査開始の2年目調査区
C <sub>1</sub> ・・・3月, 7月, 11月に調査開始の1年目調査区	C <sub>2</sub> ・・・3月, 7月, 11月に調査開始の2年目調査区
D <sub>1</sub> ・・・4月, 8月, 12月に調査開始の1年目調査区	D <sub>2</sub> ・・・4月, 8月, 12月に調査開始の2年目調査区

※ 副標本の詳細については、労働力調査年報「付3 標本抽出方法及び結果の推定方法と推定値の標本誤差」を参照

## 2 結果の推定

四半期平均、年平均結果は、該当する期間の月次結果を単純平均して算出している。

月次結果については、毎月の基本集計結果の男女、年齢10歳階級(5区分)、就業状態(就業者、完全失業者、非労働力人口)別人口を基準人口とする比推定によって算出している。

算出の基本式は、次のとおりである。

(特定調査票A欄(就業者に係る項目)の項目を例)

A欄の推定値=線型推定値によるA欄の値×(基本集計の就業者数/詳細結果の就業者数)

なお、線型推定値は、基本集計結果の算出の際に用いた線型推定用乗率による集計値である。

## 3 推定値の標本誤差

標本誤差の大きさは、推定値の大きさのほか、調査項目の種類や調査年又は月によって異なる。その目安となる標準誤差は次のとおりである。

年平均結果の標準誤差			四半期平均結果の標準誤差		
推定値の 大きさ(万人)	標準誤差 (万人)	誤差率 (%)	推定値の 大きさ(万人)	標準誤差 (万人)	誤差率 (%)
5000	18.9	0.4	5000	37.7	0.8
2000	11.5	0.6	2000	22.9	1.1
1000	7.9	0.8	1000	15.7	1.6
500	5.4	1.1	500	10.8	2.2
200	3.3	1.6	200	6.6	3.3
100	2.3	2.3	100	4.5	4.5
50	1.5	3.1	50	3.1	6.2
20	0.9	4.7	20	1.9	9.4
10	0.6	6.5	10	1.3	12.8

これらの表に示されている誤差率は、項目ごとの誤差率を曲線の当てはめにより平均的に評価したものである。

なお、誤差率については、線型推定値を用い近似式により算出したものである。